

ファザー・オブ・
ザ・イヤー in みえ

大賞

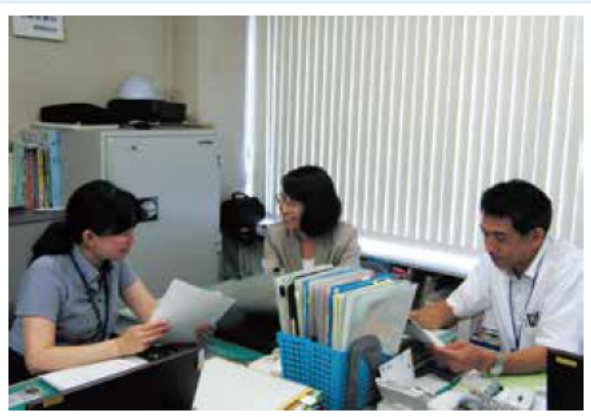
“イクボスさん
いらっしやい!”部門

株式会社第三銀行
人事総務部人材開発課長

伊賀市 越村 立子さん



推薦者 水谷 泉さん(部下)



イクボスと言えば“男性のボス”というイメージが強いと思いますが、当行の人材開発課のイクボスは女性です。その名も“越村ボス”です。

越村ボスは、かつては2人の子どもを育てながら仕事と育児に奮闘していた経験があります。当時は育児休暇や短時間勤務制度等は無く、ただがむしゃらに頑張っていたそうです。そのような経験があるからこそ、ワーク・ライフ・バランスの両立に向けた理解があって当たり前と思われがちですが、正直時代は違います。時代に合わせたイクボスとしてスイッチを切り替え、理解や意見をもらっています。

「授業参観? ええよ～行っておいで! しっかり子どもを見たらなあかんで!」「旗当番? 緑のオバサンしてくれるの? ちゃんと子どもらが交通マナー守ってるか見たってな!」「みんな(人材開発課職員)も子どもの頃そうやって育てたんやんな～。有難いよなあ!」と必ず一言掛け、“子どもを見る”ということに理解をしてくれます。少なからず遅刻や早退をすることで、業務は他の職員に助けてもらわないといけなことがあります。この一言で働くママの気持ちが一軽になります。

ボスの役割は、ボスの理解だけではなく、周りの職員の理解を得ることで風通しの良い職場環境づくりをすることであると思います。越村ボスは、子育てに限らず、ワーク・ライフ・バランスへの理解や、部下職

員のキャリアについてもしっかりと指示をしてくれます。「この本、仕事にもプライベートにも役立つから読んでみる? 電車の中で読めるような本だから。」と、通勤時間などを活用して何か出来ることを提案してくれます。私自身、皆が助けてくれる分、もっと能力を上げたいと考えるようになりました。子育てをしながらキャリアを描くのは大変ですが、そっと背中を押してくれるだけで頑張れるものです。そんなことを教えてくれるイクボスです。また、女性の管理職として、男性職員へイクボスのアドバイスを行うことも。当行でイクボスが着実に根付いていくことを期待しています!

👍 審査員共感!ポイント

- 自分自身ががむしゃらに頑張ってきた経験をもとに、ボスだけが理解するのではなく、周りの職員の理解を得ることで風通しの良い職場環境づくりをしているところがステキ!
- 単純にプライベートを優先させるのではなく、同時にキャリアアップや仕事の実績を上げるためのサポートも上手にやっているところが素晴らしい。
- 部下が「皆が助けてくれる分、もっと能力を上げたい」と思える職場がうらやましいです!